
微妙な恋

まち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

微妙な恋

【コード】

N8191B

【作者名】

まち

【あらすじ】

気付くのが遅くて失ってしまったものがありました。

微妙だった。

好きなのか、嫌いなのか分からなくて
微妙な感情だったわ。

冬の気配を感じるこの季節になると
あの微妙な感情が
熱を、帯びていくの。

あれは10月の初めの頃だったわ。
当時付き合っていた彼との関係がマンネリ化したのをきっかけに
私は、ある男と一夜の関係をもった。

あの時は新鮮でね
欲の罠にハマリそうだった。
求められる事が、これほどに
心を満たすなんて…。
私はなにも知らずに…。
彼の気を知らずに…。
所詮遊びのどす黒い罠にまんまと落ちた。

彼となんか、いつ別れてもよかった。

でも彼は
別れ話ひとつする事はなかった。
適当にあしらって、適当に体を重ね
帰り間際にはいつも
「またな」って言う。

彼の気持ち、分からなかった。

それでいいの？彼はいつも通り…。
なにも変わらないまま。

私は分からなくなった…。

この胸の中に潜んだ
言葉にできない微妙なモノを。

「別れよ」

私は1年2ヶ月付き合った彼との関係を
こんな簡単な言葉で終わらせた。

彼は反論せず
俯いて、頷き続けるだけだった。

そして

最後に彼は

「海へ行こう」と私を誘った。

季節外れの海には、人影ひとつなくて
海岸に打ち上げられた貝殻を気にする事なく、2人して腰を下ろし
た。
仲良く並んだ姿は

以前の

「恋人」の姿だった。

そして、私の口は意志とは裏腹に動きこつ彼に訊いた。

「貴方は私を愛してた？」

すると彼は、顔色ひとつ変えず

「今もね」

私は戸惑いを隠せなくて

「じゃあね」

その言葉をおいて、帰路を急いだ。

なぜ？

なぜ彼は…。

後に気付いた事は馬鹿らしい事でした。

求められたかったんじゃない。

愛してほしかった。

愛しなかった。

遊びの男に感情なんてなかった。

でも…

彼にだけ、微妙な感情があったわ。

これは

「愛」じゃないと思ってた。

考えてみてよ。

好きなんじゃない。

嫌いなんかじゃない。

じゃあなに？

愛してる。

汚い私にはなくてよかった微妙な感情。
離れたくないとか…
会えなきゃ寂しいとか。

ねえ、初めから私は
彼を愛してたんじゃない…。
もう遅いわね。

彼の気持ちはもう

海の中。

私へくれた想いはあれで
最後だったのよね。

彼もこの微妙な感情と
過ごしていたのね。

私は今こうして
微妙な感情と暮らしている。

おかしな話ね。

微妙な恋…。

それは適当なんかじゃない。

本気の恋。

今もずっと

当たり前だった彼がいう
「またな」

聞きたいの。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8191b/>

微妙な恋

2011年10月3日11時51分発行